



### 民間資金は投資を高める Private funds boost investment

ペルーは貿易業者や輸出業者にとって重要な地域となることを目指し、アンデス山系の国として持続可能な港湾開発を促進している。P&H のマイケル・マッキー(Michael Mackey)が報告する。

ペルーの港湾を変革しようとするいくつかのプロジェクトの最初のものとして、首都リマ(Lima)のちょうど北に位置するカヤオ(Callao)で DP ワールド(World)が新しい施設を建設する仕事を最近開始した。国や港湾オペレーターにより事業の重要性を強調するため、ペルー大統領のアラン・ガルシア(Alan Garcia)氏と DP ワールドの社長のサルタン・アーメッド・ビン・スレイヤム(Sultan Ahmed Bin Sulayam)氏は一緒にターミナルの着工を祝うためムエリヤ・スール(Muelle Sur)建設の礎石を据えた。

2 億 1,000 万ドルの第 1 期投資額は、DP ワールドと地元企業のユニマー・グループ(Unimar Group)が、70 対 30 の割合で負担し、既存港湾を拡張するのに使用される。事業はバース背後に 22ha のコンテナヤードを備えた全長 660m に及ぶ 2 バースの建設となる予定である。

ムエリヤ・スールターミナルは 5,500teu 級の船までが着岸できるようにし、年間能力は約 80 万 teu となるだろう。超ポストパナマックス型の岸壁クレーン 6 基、18 基のタイヤ式門型クレーン(RTGs)、その他の設備が整備されることとなる。

第 1 期の供用開始は 2009 年の後期になる予定であるが、需要の増加に応じ、更なる開発、追加 1 バースとコンテナヤードの増加で、130 万 teu の容量までにする 것도可能である。

セレモニーでビン・スレイヤム氏はペルーがメジャーなハブ港、また、南アメリカの西海岸の玄関港を開発することを期待しているとコメントした。

ガルシア大統領は、「この重要な事業でこの港は、南アメリカで最も大きな港となるだろう。このプロジェクトは、数億ドルの民間投資により実施されるだろう。」と付け加えた。

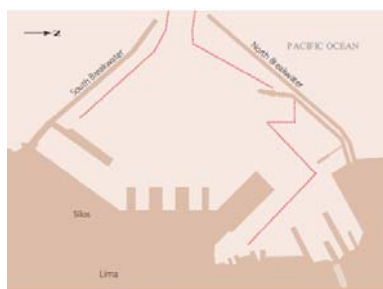
ペルーにある 10 港のうち、カヤオ港は最大の港で、この国の貿易量の 3 分の 2 を取り扱っている。また、ある企業からの情報によると、アクセスが非効率で、政府の手続きが煩雑であり、貿易を阻害していると言われている。この DP ワールドの施設は、この国の港湾施設の向上にかなり貢献するだろう。



港湾の発展を手を取り合って進めることは、港湾へのアクセス、入港航路の拡幅、港内の航行援助施設の追加、セキュリティーとロジスティック施設の増強を含めた関連インフラ施設整備の促進を行うことである。

DP ワールド・カヤオは船の旋回泊地やアクセス航路(港口を含む)を水深 14m に確保するための浚渫を引き受けるだろう。港口の拡張は港湾管理者 APN によって別の事業として行われるが、これは、コンセッション契約の元で、DP ワールド・カヤオによって設立されたインフラ改良信託基金によって賄われるだろう。

DP ワールドだけがペルーの港湾部門の開発に関わる民間資金ではない。ペルーの会社もまた資金参加することが奨励されている。ネプテュニア(Neptunia)というペルーの会社はもうすでに設立され、カヤオの北にある施設に投資をしている。



これまでのところ、ネプテュニアは、より開放的市場への準備の一貫として、ペルーで始めて導入されたタイヤ式門型クレーン 2 基への投資を行った。またそのヤードにはナヴィス(Navis)のオペレーターシステムを導入した。ここでは、12ha の空コンテナ用ヤードや、新しい倉庫管理システムを備えた倉庫も建設されている。

この倉庫を補完するため、ネプテュニアはまたロジスティックサービスに投資しており、1 年で売り上げを 2 倍にするビジネスとして期待されている。

加えるに、その会社の最も大きな投資は、量を決めずに、補助として、カヤオの北に新しい港湾施設を建設しているオペラドーラ・ポルツアリア(Operadora Portuaria)に資金提供することである。

「この新しい港は、2010年の第1四半期には供用開始になるだろうとネプテユニアの最高経営責任者のカルロス・ヴァルガス・ロレ・デュ・モラ(Carlos Vargas Loret de Mola)氏は発表した。彼は、この港湾は、精鉱、硫酸のような化学物質やある穀物や肥料などを扱う民間専門施設の港湾として設計されている。新しい港湾には、専門積込バースと穀物荷揚バースもあると付け加えた。

投資環境について言うならば、「港湾は今も政府によって運営され、縦断的な統合はなされていないし、コンテナターミナルや専門インフラの必要性は、日々より明白になってきている」とデュ・モラ氏はコメントした。

港湾部門は幅広い範囲からの投資を引きつけるものと期待されており、これは、国の年金基金にも当てはまる。年金基金は投資先を渴望しており、既に約210億ドルもの資金が投資されている。年金基金は家庭の貯蓄の75%を占めていると見積もられている。

私たちは港や有料道路及び空港のようなインフラに投資する用意がある。パイプライン事業に対しては300億ドルの用意があるとペルーのバンコ・ビルバオ・ビスカヤ・アルヘンタリア銀行(BBVA)年金基金のディレクターであり、ペルー年金基金協会の会長でもあるペドロ・フレッチャ(Pedro Flecha)氏は言った。

ペルーは多くの良い指標が高まったので、ソブレン格付け(政府の債務履行能力格付け)が向上する次の南アメリカの国となることができるであろう。「そのことにみんな非常に注目している。」とJPモルガン・チェイス(Morgan Chase)の新興市場政策部の国際部長であるジョイス・チャン(Joyce Chang)氏は言った。

フィッチ・レイティング(Fitch Ratings)格付け会社は、もうすでにペルーの対外債務が投資を行うべきレベルであると判断しているし、より大きい格付け会社であるスタンダード・アンド・プアーズ(Standard&Poor's)やムーディーズ(Moodys)は、まだ公式には賛同していないが、今年後半にはペルーの格付けを上げるかもしれないと示唆している。

これら格付けは、南アメリカ大陸全体の4%という平均的な成長率と比較して、ペルーは2008年に経済が7%成長するとの国際通貨基金(IMF)の予測に反するというべきである。ペルー政府はより厳しい見解を持っており、金融経済大臣のルイス・キャランザ(Luis Carranza)氏は、下半期5.9%成長という数字を示している。リマ(Lima)の商工会議所はインフレ率5.4%で、GDPは7.7%成長すると予測している。もっと明確に言うと、過去4年間の累積成長率は41.7%であったと記述した。



(抄訳者:国土交通省港湾局 計画課 石松 和孝)  
(校閲:栗本鐵工所 名古屋支店 顧問 笹嶋 博)